

8/10
朝日

安保 長崎でもすれ違い



①政府側への意見や要望を述べる被爆者団体の代表者
②被爆者団体の代表者の意見に答える安倍首相(いずれも9日午後、長崎市、池田良撮影)

被爆者「何回も撤回求めた」

首相「平和守るために必要」

安倍晋三首相は9日、長崎の被爆者5団体と長崎市で面会した。平和祈念式典で田上富久・同市長が述べた「平和宣言」に続き、ここでも安全保障関連法案への強い懸念が被爆者団体から示された。安倍首相は「戦争を未然に防ぐためのもの」と従来通りの見解を述べ、議論はかみ合わないままだった。▼1面参照

式典は面会に先立ち、同市内で開かれた。田上市長が平和宣言で、政府や国会に安全保障関連法案の慎重な審議を求めると、参列者から拍手が起きた。被爆者代表の谷口稜暉さん(86)が法案を「許すことはできない」と述べた場面でも、拍手が続いた。

被爆地では、今回の法案への懸念が強い。「戦争元年」とも表現すべき危機感を禁じ得ない

「私たちは何回も撤回を求めてきた」。5団体の一つ、長崎県被爆者手帳友会の井原東洋一会長(79)は面会の際、安倍首相にこう迫った。

これに対し、安倍首相は「国民の命、平和な暮らしを守り抜くために、必要不可欠なもの。圧倒的多数の諸国から支持と評価をいただいている」。結局、予定されていた質疑応答は一時間の制約」があるとして打

ち切られ、突っ込んだやりとりには至らなかった。長崎県平和運動センター―被爆者連絡協議会の川野浩一議長(76)は、集団的自衛権の行使容認がテーマとなった昨年の面会にも出席した。議論の後、安倍首相に握手を求められた際に「納得していませんよ」と伝

え、「見解の相違です」と返された経緯がある。この日も握手の機会があったが、川野さんは声をかけなかった。「(安倍首相は)広島、長崎をわかっていない。私たちは平和が平和をつくるという前提。全くかみあっていない」と話した。(岩波精、木村司)

三原則巡る批判 首相側は想定外

周辺語る

「未来志向のあいさつにと、まったく他意はないのに変なふうを受け止められた。無用な心配をおかけしないように、長崎では入れることとした」

安倍晋三首相が9日、長崎市の平和祈念式典のあいさつで非核三原則の堅持に言及したことについて、首

とする政府の非核三原則に触れなかったのは初めてだった。広島の式典翌日の7日、衆院予算委員会で野党から追及されると、首相は「非核三原則は当然のこと、その考え方に全く揺るぎはない」と釈明。長崎でのあいさつには三原則を盛り込む考えを示した。

国会では首相肝いりの安全保障関連法案が参院で審議され、首相の戦後70年談話の閣議決定が14日に予定されるなど、今夏は「戦争と平和」をめぐる安倍政権の認識がいつそう問われている。そこに、非核三原則に触れなかった真意について疑念の声が上がった。

首相は9日、長崎市で、政権の姿勢に懸念が出ていることに対して、こう強調した。「不戦の誓い、平和国家の理念はこれからも決して変わることはない」